

## 令和7年度第1回 秋田県環境教育等推進協議会 議事概要

### 1 日時

令和7年7月9日（水） 午後1時30分～午後3時20分

### 2 場所

秋田県議会棟 特別会議室

### 3 出席者

○委員（敬称略）

小沼登志美、東海林拓郎、佐藤賢輝、木口倫、小笠原正剛、福岡真理子、伊藤睦子、  
伊藤悟、高橋佐紀子

以上9名

○事務局

温暖化対策課長 野村桃子 ほか7名

### 4 議事

- （1）第2次秋田県環境教育等に関する行動計画の中間見直しについて
- （2）その他

### 5 質疑

- （1）第2次秋田県環境教育等に関する行動計画の中間見直しについて

○木口座長

事務局からの説明について、ご意見やご質問などの発言をお願いします。来年度に向けて環境教育等について効果的と考えるご意見がありましたら、ぜひ発言してください。

○小笠原委員

資料2に「大人」と「事業者」を対象とした環境教育とあるが、これは資料4における柱2（あきたエコマイスター）と、柱4,5（あきたエコ&リサイクルフェスティバル）に対応しているという理解でよろしいでしょうか。

○事務局

その通りです。環境教育を大人に行うという側面と、大人が地域の環境教育に参画してほしいという面があるので、柱2と柱4,5に該当すると考えております。

○小笠原委員

資料4の管理指標のところ、エコマイスターに関しては検討中と記載がありますが、数年後にチェックする数値的なものとなると思われます。現時点で、何か案があれば教えてください。

○事務局

現在の案としては、資料4に記載されている通りで、エコマイスターや地球温暖化防止活動推進員の方々を意識した部分を盛り込もうと考えておりますが、ご意見あればお聞かせいただけると幸いです。

○小笠原委員

昨年度の協議会の中で、こどもエコクラブに関しては人数による指標の管理は非常に厳しいだろうということで、今回は割合にする案を提案いただいたと思います。しかし、エコマイスターに関しても、人数で考えるとやはり厳しい部分があると思います。また、参考資料1にある「計画で目指すところ」で、「持続可能な社会づくりに主体的に参加できる人材の育成」が掲げられていますので、現在の案で「50代以下の割合を増やしたい」というのは、若い人を増やしたいという意図だと受け取れます。そう考えると、年齢で50歳以下と区切るのは今どうなのかという点で、少し考える余地があると感じました。その点についてご意見があればお願いします。

○事務局

現在は制度の見直しを進めているところですが、様々な場で活躍していただく方々を任命したいと考えています。現行計画では50代以下の割合を指標値としていますが、例えば、事業所や大学などには若い方々がいるので、そういった方々との連携も含め、現在は検討を進めているところです。

○小笠原委員

例えば学生が希望すれば、そういった推進活動に応募しやすくなるよう、今後検討していくということですね。分かりました。

全体に関する質問をもう2つ伺います。1つ目は、専門性が高くやる気のある人をどう伸ばすかということと、裾野を広げることの両方が大事だという点です。そういった観点で考えると、学校への講師派遣等の支援事業については、手を挙げた学校の数和管理指標となるでしょうか。

また、やる気のある、高いレベルを目指す教育と、普段あまり環境を意識していない方に訴求するエコフェスのような活動のバランスはどうでしょうか。柱 3 番の狙いと柱 4 番の狙いは違うと思いますが、そのバランス、あるいは参加だけでなく、どう広く県民全体に声をかけていくかというところについて、何か計画や案があれば教えてください。

#### ○事務局

管理指標はあくまでアウトプットを表すものであり、取組の結果となるため、学校を対象にした働きかけは、こちらから参加を促し、参加者を募ることになると思われます。環境学習の機会を現場でも増やしていただくことと合わせながら、引き続き考えていきたいと考えていますので、学校現場を担当している皆様からのご意見を伺いたいと考えております。

#### ○小笠原委員

分かりました。最初に質問した大人向けの学習機会にも少し関係しますが、環境あきた県民フォーラムでは幼稚園や保育園を対象とした取組の中で、保護者を意識した取組も行っております。また、私が所属する秋田大学で活動している中でも、保護者参加型のイベントを行うと、対象は小学生の授業や実験教室ですが、保護者向けに話す機会もあります。

エコフェスにおいても、保護者とお子さんが一緒に来場するケースがあると思いますが、例えば環境教育支援校に関しても、10 代以下だけでなく保護者も含めて機会を提供できる可能性はあると思います。計画の見直しに盛り込むかは別として、取組の進め方としては意識する必要があると思います。

それと、「教員の負担軽減」という表現について、教員の負担軽減につながっているかという指標は得られるものかが気になりました。支援件数が増えたから教員の負担が減っていると一概に言えるのでしょうか。

#### ○事務局

完全に管理指標として現れるものではないと思います。例えば、見直し案で考えている SDGs 講師派遣に関しては、専門知識を持つ方からご協力いただき、学校に派遣する形となるため、学習の進め方等について先生と考える機会を設けることにつながると考えています。

#### ○木口座長

小笠原委員から中間支援組織の話が出たので、福岡委員の方から、他のことも含めて発言をお願いします。

## ○福岡委員

小笠原委員からご発言のあった人材に関して、先月末、東京にて「脱炭素コミュニケーター」の養成を行ってきました。各ディーラーの目的は、企業を挙げて脱炭素を進めていかなければならないという大きな目標のもと、これまでは「カッコいいから」とか「感情に訴える部分でこの車が好き」というアプローチで販売してきたものを、脱炭素の視点も加えて営業し、よりハイブリッド車や電気自動車の推進を強力に進めていくというものです。現在、関東では 200 名以上がコミュニケーターになっています。

企業も社会全体に貢献したい、あるいは貢献しなければならない時代になっていますので、そういった大人や事業者の部分で、業界団体を巻き込んで養成を進めています。元々商品に対して基礎知識のある人たちが子供に話すのは、非常に面白い話や裏話もたくさん出てくるので、そういった連携を計画に盛り込めるのではないかと考えていました。

中間支援組織は、様々な業種からお声がけいただく機会があり、様々なところとのマッチング実績がありますので、そういったところを情報提供していきたいです。

## ○伊藤睦子委員

現行計画では、エコマイスターの 50 代以下の割合を増やしたいというお話ですが、50 代以下は働き盛りで、なかなかボランティア的な活動に時間を割ける人材を増やすのは大変だと思います。逆に、今活動している高齢の方々がもっと活動しやすくなるような環境を整えることに、もう少し重きを置くのも良いのではないかと考えています。秋田のシルバー人材センターに登録されている年代の方々は社会参加に強い関心があり、まだまだできると意欲的な方もたくさんいます。若い方を育てることも重要ですが、今活動している方々がより活動しやすいような環境をつくっていくことも大事ではないかと考えています。高齢化社会ですし、秋田県は高齢県なので、逆にこの特性を活かして、高齢県からの成功事例として、秋田県から全国に発信していくという点もあるのではないのでしょうか。

こどもエコクラブとコラボすることも、エコマイスターの方がエコクラブと活動することで世代間交流にもつながりますし、高齢者にとっては社会参加による生きがいづくりにもつながります。そういった生きがいを持った高齢者がいることは、地域の活性化にもつながると思いますので、一概に年齢で区別するのではなく、今活動している方々が活動しやすいような環境づくりも良いと思います。また、現在はこういった方が在籍していて、どんな活動をしているかという情報についての共有の場があればもっと良いと考えます。

### ○東海林委員

エコマイスターに関連する管理指標とするのであれば、何を、何人に対して、何回やったか等、エコマイスターの活動が環境教育の成果としてどう社会に還元されたのかを考慮する必要があると考えます。もちろん人数という視点も重要なので、指標として見ていく分には良いのですが、環境教育の行動計画の成果として、ある程度の成果が出た人たちが、さらに社会に対してどれくらいインパクトを与えたかというところをうまく拾っていけるような指標があれば良いと感じました。

### ○木口座長

管理指標の設定に際しては、今の東海林委員の意見も踏まえ、検討いただければと思います。また、年齢を重ねると一人で活動するのは難しいので、伊藤睦子委員から発言があったように、横のつながりを持った連携を考えた上で、情報共有ができる場の提供等についても検討に含めていただきたいと思います。

### ○事務局

活動のあり方もそうですが、やはり推進員の方々からどういう報告をもらうかという点についても一緒に考えていかなければなりません。あまり負担をかけないやり方で、かつ県としても情報を把握し推進員の方々とも共有できるような仕組みを考えなければならないと考えており、委員の皆様からもその点についてご意見があればお願いします。

### ○東海林委員

現在活動されている推進員の方々には中間支援組織と一緒に活動している方が多い印象があります。そのため、実績の集め方については、中間支援組織の方に成果を拾い上げていただくなど、協力をいただくというようなことが考えられると思います。

### ○木口座長

エコマイスターから推進員に統一を進めるという記述がありましたが、活動の趣旨は温暖化対策だけに限られないと思います。その名称が適切かどうかは検討されているのでしょうか。ちなみに、国の方では温暖化対策だけでなく、今では生物多様性やネイチャーポジティブなど様々なことを考えて活動しなさいという方針が出ています。それは環境に関するもっと上位の計画ですが、県においては推進員という形で一本化することなのではないでしょうか。

### ○事務局

現在のところ、名称については国の法律に則っていますが、推進員それぞれの得意分野等もありますので、そういった点も含め、新たな制度の検討を進めていきたいと考えています。

### ○木口座長

分かりました。それでは、資料2の1ページの2つ目の項目、ESDやICTを活用した学びの推進などについて拡充することですが、これに関して小学校や教育委員会の方々がどのように考えているか、ご意見があればお願いします。

### ○小沼委員

小学校も中学校も、総合学習の中心はSDGsとなっており、地域のこと、環境のことに関して、子どもたちはそれなりの知識を得ています。私たち教員は、学校だけで終わらせず家庭や地域に還元しようと、保護者に「こんなことを勉強していますよ、家庭でも取り組んでみてください」と投げかけたりもしていますが、最終的に子どもたちがレポートにまとめる際は、子ども自身の生活範囲の狭いテーマに留まりがちです。エコマイスターや推進員等の地域の方々を通じて子どもたちに働きかけていくあり方があれば、学校としてもまた手がかりになるかも知れません。

色々な施策を新しくすると、学校や支援者の方々も忙しくなりますが、例えば今学校で夏休み前などに配られるプリントでありがたいものの一つに、「ボランティア一覧」というものがあります。そういったものがあると、何かがきっかけで参加につながりますので、学校を離れて家庭や地域につながられます。

### ○伊藤悟委員

やはり環境教育については、体験とリンクさせながら進めることが非常に重要だと思います。近年、ICTを活用した学びが進展し、学校にも1人1台のタブレット等の環境が整備されてきているため、子どもたちの自発的な調べ学習の機会も増えてきております。

中学生くらいになると、ICTの活用には十分慣れてきて、自分たちでどんどん調べたりできるようになると思いますが、小学校の低学年や中学年の子どもたちにとっては、自分で調べていく際にウェブサイトから得られる情報が非常に重要になると思います。そのため、サイトの充実も、ICTを活用した学びの環境を整備する上では大事な点であり、小学校低・中学年の子どもたちでも活用できるような工夫があればよいと思います。

また、学校における環境教育は、例えば理科や社会、また総合的な学習の時間等を通じて、横断的・総合的に取り組むことになっており、学校全体や学年単位で、体験活動と関連させながら、年間計画のもとで実施することが基本的な考え方だと考えます。その際、学校の地域的な特徴や子どもの発達段階に応じて年間計画を作成することになりますが、計画を策定する段階で、専門的な知見からのアドバイスをいただいたり、あるいはどこかとコーディネートしたりするような人材の存在も重要です。

今回、人的支援がポイントの一つとして挙げられていますが、そういった取組があれば、初めての学校でも環境教育に取り組みやすくなったり、これまで実践してきた学校も活動をさらに充実させる上で効果があるのではないのでしょうか。そのため、計画の段階から学校に参画できるような人的支援も検討していただければと思います。

#### ○東海林委員

今の伊藤悟委員の意見は、私自身も最後に話そうと思っていたことでした。人的な支援とは言っても、人を派遣するだけでは使い方が分からないという問題もあるので、例えば半年分の年間指導計画の作成にかかる支援や地域における資源の紹介、少し教育系の知識がある人であれば計画の評価まで含めて相談に乗るなどできれば、学校としてはありがたいのではないのでしょうか。

一方で、中間支援組織側からすると対価がないのはかなり大きな問題だと認識しており、そこは次の課題だと考えています。

#### ○福岡委員

まず、ICTを活用した学びに関して、私たちも様々な実証をリアルタイムで行っており、現在、高校2、3校において、タブレットを用いて家庭のエネルギー消費の内訳を診断する環境診断プログラムを試行しています。感想を紹介すると、「これまでは親に送迎をお願いしていたが、今後は自転車を使うようにしたい」「お小遣いを貯めて節水シャワーヘッドを家族にプレゼントしたい」「光熱費の削減目標を家族で立て、安くなった費用で焼肉を食べに行くのを家族目標にする」といったものもあり、ICTは、使い次第で、様々なライフスタイルのデザインにつながり得るものと考えています。

中間支援組織としては、「地球温暖化まなびボックス」について情報提供させていただきます。これは、環境省の事業費を活用し、全国地域温暖化防止活動推進センター

(JCCCA)と学研が2年かけて作成した環境学習の支援ツールで、学校の方には無償で提供する予定のものです。

県内では、地域センターが主体となって、秋田県域全体にある小中学校にこれを活用していく流れになりますので、まずは地域センターの従事者向けに研修会を実施し、その先の推進員やエコマイスターに広げていく計画です。

やる気のある先生の負担軽減に資するほか、様々な関連人材にも活用いただけるツールですので、ぜひ情報発信をお願いします。

現在、ツール上では40枚のスライドが用意されていますが、企業と連携し、それぞれが行っている脱炭素や生物多様性保全といった分野のスライドを更に増やしていきたいと考えており、秋田県の推進員が活用するのであれば、秋田県の実情に即したスライドを追加していくことも可能にしたいと考えています。

小中学校向けのリリースの後、高校生バージョンの着手が始まっており、秋田県からは私と、この春に大曲南中学校を退職された島田先生が、2年前からコアメンバーとしてこのプログラムの構築に関わっています。中間支援組織として全国展開するわけですが、秋田県が独自にツールをわざわざ作るのではなく、既存のものを上手く活用できる人が、企業の力も借りながら環境教育を実現できないかと思い、本日ご紹介しました。

#### ○事務局

以前の協議会において、各学校における教育の方針は学校に委ねられているという意見を伺いました。こういった教材が多く活用されるようにしていきたいと考えていますが、各学校への働きかけ方等、広く活用してもらえるようなアイデアはありますか。

#### ○福岡委員

関係者による合意が必要ですが、あきたエコフェスやあきエコどんどんプロジェクトのアプリを活用し、教材の紹介や協賛企業の募集ができるかも知れません。また、関連機関のウェブサイト上での掲載やメールマガジンの活用により、学校や企業がアクセスしやすい形で配信していきたいと考えております。

以前、再生可能エネルギーに関する授業動画を作成した際、県教育委員会から小中学校に配信に協力していただいたことがあり、本件についてもご協力いただければと思います。

#### ○伊藤悟委員

非常に意義のあることだと思いますし、学校現場ではとても有効な手段になると考えられるため、依頼をいただければ、協力できることについて検討させていただきます。

#### ○木口座長

この事業は何年間継続される予定でしょうか。

○福岡委員

当該事業は全国地球温暖化防止活動推進センターとして実施されており、今のところ期間の設定がありませんが、できるだけ継続していく考えです。

○木口座長

この事業は、教員等にツールを提供する形であり、利用する側がスキルを身につける必要があるため、教員の負担軽減と環境教育の質の向上という点においてバランスが必要ではないでしょうか。

○福岡委員

各教科の学習単元ときちんと紐づけ、教員向けの説明書も準備しているほか、ご自身の担当教科内で使えるパワーポイントやワークシート、クイズを自由に活用し、カスタマイズできる仕組みになっています。無理に専門分野以外のところを使ってもらうことは想定しておりませんが、この取組がきっかけとなって次につながるかもしれないという期待も込めてツールを作成しました。

○木口座長

スキル向上にも貢献する内容になっているということですね。分かりました。

続いて、資料2の5ページに体験を重視したプログラムに関する記述がありますが、佐藤委員から、施設の利用状況についての情報提供やご意見等あればお願いします。

○佐藤委員

県教育庁生涯学習課では、大館少年自然の家、保呂羽山少年自然の家、岩城少年自然の家の三つの少年自然の家を所管しており、それぞれの地域の特色を生かした自然体験活動等を実施しています。

大館少年自然の家では川遊びの様子が載っていますが、他にも野外活動として登山や、創作活動としてオカリナの作成などのプログラムがあります。保呂羽山少年自然の家では、火起こし器を使った火起こしの様子が載っていますが、他にも野外活動としてカヌー体験や化石採集などのプログラムがあります。岩城少年自然の家では、防災スキルの一つとして袋水飯に取り組む様子が載っていますが、四季の変化に富んだ、海、山、川などの豊かな自然を生かし、山での散策や、海でのサーフィン、サップ体験などのプログラムを用意しています。岩城少年自然の家のホームページで活動の様子を視聴できるので、時間があればぜひご覧ください。

### ○木口座長

資料 2 の 5 ページには、「人材の育成・活用」の今後の取組み方針の中に「教職員のニーズに合った研修や講演会の実施」が盛り込まれていますが、これに関して、どういう手法で、時期も踏まえて実施していくのが望ましいのか、教育現場の方から少しだけご意見をいただければと思います。

### ○小沼委員

どの学校でも、学校に合わせた指導計画が既に作成されているので、教員が大幅に変わるなどして学校全体で検討しない限りは、前年度踏襲の形になる場合が多いと思います。教員個人の思いや能力を高めていかないといけない側面もあると認識しており、皆様から提案があった外部の体験活動等を通じて、学校以外のところにいかに目を向けさせるなど、学校に刺激を与えることも重要であると思われます。

### ○東海林委員

高校では年間指導計画を作成していますが、探究活動の中で、テーマをどう決めさせようか、そのテーマに沿った活動をどう取り組んでもらおうかといった点で、多くの先生が迷っていると思われ、そこに手助けがあれば現場としては非常に助かると思います。

そういった意味で、先ほど申し上げた年間指導計画やカリキュラムと一緒に作成してもらうこと、そして最後に評価まで含め、どうすれば生徒の主体性や知識、技能、表現力などを評価できるかというところまで考えてもらえるのであれば、おそらく非常に歓迎されると思います。

また、進学校と就職メインの学校とでは温度差がありますし、総合的な探求の時間は全ての学校で実施しなければならないことになっていますが、全ての学校がその時間を最大限活用しているかというところではない部分もあると思われるので、そういった面では学校に対して訴求できる余地は大きいと考えます。

### ○事務局

東海林委員の仰る通りで、学校現場の声を聞くと、やはり計画を立てるところから一緒にやってもらわないと、なかなか厳しいという話を伺っています。ESD 教育というのは、探究の時間と、理科社会など各教科を横断的につなぎ、年間でテーマを設定して学年全体で取り組む壮大な計画です。

令和 4 年度から学習指導要領にも ESD が反映されたこともあり、今が環境教育の過渡期だと認識しており、現場の先生方と一緒に少しずつ取り組んでいければ、変化が生まれていくのではないかと考えています。

#### ○木口座長

私も高校の探究学習には様々呼ばれて関わるがありますが、高校の先生方は非常に苦労されていると感じますし、評価を依頼されても評価も非常に難しいという実態があります。是非、教員の先生方のやり方が少しでも効率的になるようなフォローができるような計画にしていいただければと思います。

時間が迫ってきましたが、資料 2 の 7 ページにおけるタブレットの有効活用について、学校の状況をお聞かせください。

#### ○東海林委員

有効活用の「有効」の意味も時代によってどんどん変わってきており、パワーポイントのようなアプリケーションで自分の言いたいことを表現したり、調べ学習については、もう普通のことになりつつあります。

おそらく来年の今頃になれば、生成 AI の活用も当たり前になってきていると思われますし、有効活用の意味が変化するスピードが速すぎて、何を指して「有効」と言えば良いのか分からない状況です。

なお、現場では、作文をしている生徒のタブレットを覗き込んでみたら、生成 AI で作文していたというようなこともあります。先生側よりも生徒の方が、画面の中にあるアプリケーションは何だろうと関心を持ち、実際に使いこなしている状況の方が多いと思います。

#### ○木口座長

先ほど伊藤悟委員から小学生や中高生における ICT の活用についてお話がありました。生成 AI に対するリテラシーについてはどのような状況なのか、コメントやご意見があればお願いします。

#### ○伊藤悟委員

小学校や中学校においては、学習活動の中で生成 AI が積極的に活用されるところまでは進んでいないという認識です。

ただ、中にはそういったツールを使っている子どもはいると思われますので、AI に関わらず、インターネットに関するリテラシーの問題や情報モラルについては、研修会をこれまでも実施してきているほか、保護者会などの場で専門家から講演してもらうなど、注意喚起を継続して行っています。そのため、情報の取扱いについての知識は小中学生ももっていると思いますが、実際に様々なトラブルも発生しているのも事実ですので、これからも慎重に対応していかなければならないと認識しています。

#### ○木口座長

時間が迫ってきましたが、最後に全体を通して、委員の皆様から、言い忘れたことなども含めて、ご意見やコメントはございますでしょうか。

#### ○小笠原委員

資料 2 や資料 3 の中で、地域における住民や民間団体への取組の縮小が課題とされていますが、産業の団体や、技術の団体など、環境の側面を持つところがあると思いますので、そういった横のつながりについても、これからの推進方針として考えても良いのではないのでしょうか。学術研究の場でも、専門的な学会と全く違う学会が共同で研究発表会を実施し、普段会わない人と意見交換をしたり、「この材料、我々はこの見方しかしていなかったけれど、こちらから見ると全く違う側面があるんだな」といった交流もあります。ちょうど、資料 3 の右下のスペースが開いていますので、市民団体や企業団体、商工会、町内会等、色々な団体との連携はあっても良いのではないかと思いました。

もう一つ、各柱は独立していなければならないのでしょうか。もしそうでなければ、SDGs のウェディングケーキモデルのように複数の柱を合わせて実施することも考えられます。例えば、先ほどの伊藤睦子委員の話にもありましたが、エコクラブと推進員と一緒に何かやるといったことも、柱をいくつか組み合わせて共同で実施することで相乗効果を期待するのだ、というような表現があっても良いと思います。あるいは、年間 1 回はそういったイベントを実施するのだとか、エコフェスの中でそういったコーナーを設けるのだとか、そういったことを実際に実務として立ち上げて良いのではないかと思いました。

#### ○東海林委員

資料 3 中の「目指す姿」として、「持続可能な社会づくりに主体的に参加できる人材の育成」が挙げられていますが、「主体的に参加」という意味が曖昧なのではないかと感じられ、もう少し明確になれば整理しやすいと思います。

私に関わることが多い気候変動やプラスチックの問題においては、もはや一人ひとりの意識の変革を図るという段階ではなく、資料 2 の 2 ページにも出てくるシティズンシップという考え方の重要性が高まっています。

また、資料 2 の 3 ページでは「個人の行動だけでなく、組織や地域等における集団の取組を重視すること」とありますが、自分が所属している団体がどう行動するか、どう考えるかといったことが社会にインパクトを与えるのであり、主体的に社会と関わっていくことなのだということを、盛り込んでも良いのではないのでしょうか。

環境に関心のある選挙候補者を意識的に見るようになることや、環境に配慮している会社の製品を意識的に購入するなど、「主体的に参加」とは、そういった主権者・消費者としての視点を育んでいくことが今求められているのではないかと考えております。

#### ○事務局

まず柱の考え方については、計画の狙いとなるポイントを分かりやすく表現するものと位置づけており、異なる柱同士で関連し合う部分は多々ありますので、そういった点は計画の記載方法を工夫するなどに対応したいと考えています。

主体的な活動については、東海林委員の仰る通りだと認識しており、これからあらゆる主体の方々が意識を持って取り組んでいくということも、計画の中では表現していきたいと考えています。

#### ○高橋委員

計画の見直しにあたっては、本日お話しいただいた点を盛り込んでいきたいと考えていますが、実際に環境教育を進める中では難しい問題もあると思います。

特に福岡委員もお話していましたが、様々なツールや教材をどのようにして現場まで届けるかが難しく、特に学校現場は今非常に忙しいため、そこをどう打開していくのかは非常に難しい問題です。その辺りについては、どういったタイミングで、どういった形でアプローチすれば情報が届くのか、取り組んでいただけるのか、また相談させていただければと考えています。

また、点と点をつなぐと言いますか、伊藤睦子委員からも話がありましたが、活動している方々のネットワークをどう構築するのかもずっと課題です。以前は推進員やエコマイスターの名簿を作成し配布していた時期もありましたが、個人情報などの問題もあって、なかなかそこがつながりませんでした。そのため、現在、中間支援組織や推進センターなどと連携し、一緒に取り組んでいただきながら、それぞれの推進員や活動者の方々が互いに顔と活動を知っていただき、その輪が広がれば良いとずっと考えていますが、なかなか難しいのが現状です。

引き続き、そういった点もご協力いただければと思います。実務的なところは、また様々なご相談をさせていただきながら進めていきたいと考えているため、ご協力をお願いするとともに、来月の協議会までに、事務局でも本日の意見を整理しながら次につなげていきたいと考えているので、引き続きご協力をお願いします。

## （２）その他

### ○木口座長

ありがとうございました。それでは最後に「その他」に移りたいと思います。特にテーマ設定はしていませんが、委員の皆様からこの機会に話しておきたいことがあれば発言をお願いします。

### ○木口座長

特にないようです。高橋委員からお話がありましたが、次回の協議会は来月 8 月に開催予定であり、9 月議会に向けて骨子案を確定させる流れとなります。

会議の進行を事務局にお返しします。

### ○事務局

委員の皆様、ありがとうございました。これをもちまして協議会を終了します。長時間、本当にありがとうございました。